

# 高血圧症、誤解がないように！

松澤循環器科内科 (天神町) 松澤 誠

人間の体にとって、血圧とは酸素や栄養分を組織や臓器に送るための重要な仕組みです。血圧は高くても短い時間で見ると症状はありませんし、診察しても異常はみられません。しかし、高血圧が何年も続くと血管に悪影響がおよび、脳卒中、心筋梗塞、そして腎臓病を起こし、大変なことになるります。高血圧は今症状があるかどうかで判断する病気ではないのです。

昨年春に、人間ドック学会から150万人のドック健診者から健康な1万5,000人を選び出し、その血圧値に基づいて、正常血圧、高血圧を分けようとする考えがマスコミで報告され、混乱が起きました。示された血圧の正常値は、収縮期血圧147mmHg以下、拡張期血圧94mmHg以下で、日本高血圧学会の血圧分類では、一部の高血圧の方が正常と判断

されることとなります。すなわち、いままで指摘されているよりも、高血圧の基準値が高いとされたのです。

この報道は、新聞報道で大々的に取り扱われたばかりでなく、NHKでも報道されました。たくさんの方から、血圧の基準が変わったそうですね、とお尋ねを受け、驚きました。

これは、検査の基準値と言われているものには「基準範囲」と「臨床判断値」があるのですが、両者は意味するところが全く違っており、明確に区別すべきものであるということ。すなわち、一般人の人間ドック学会が発表したものは「基準範囲」で、これは多くの健康人から得られた検査値を集めて、その分布の中央95%を含む数値範囲を統計学的に算出したものであり、疾病の診断、将来の疾病発症の予測、治療の目標などの目

的に使用するのには難しいというのが公式の見解です。

また一方で、各種専門学会などで提唱されている診断基準の中で用いられている検査の基準値は「臨床判断値」であり、高血圧学会の血圧分類の診断基準に記載されているものでは、疫学的調査研究に基づいて将来の血管病の発症が予測され、予防医学的な対応が要求される検査の閾値、つまり予防医学的閾値という代表的な臨床判断値といえるものです。

今回の人間ドック学会の示したのは、健康な人たちについての統計学的な話であり、その人たちが5年、10年、20年先に病気になるかという意味ではありません。その報告のために選ばれた、とりわけ健康な人以外の99%の人については、まったく述べられていません。今では、人間ドック学会の基準値作成方法は、高血圧の診断

には用いられない方法であることを人間ドック学会も認めており、すでに訂正されています。

しかし、新聞をはじめとして報道はセンセーショナルに行われましたが、上記の訂正報道などを僕は見た覚えがありません。マスコミの無責任さを感じます。先の報道を見ただけの人は、今でもそのまま高血圧症を勘違いしているのではないのでしょうか。大事な健康の話です、くれぐれも誤解のないようにお願いします。

